



今回は、タイのバンコクを訪問しました。

タイは、どんな国

国名

タイ王国（タイ語名：プラテート・タイ／英語名：Kingdom of Thailand）

首都

バンコク（タイ語名：クルンテープ・マハーナコーン
※／英語名：Bangkok）

※正式名称：クルンテープ・マハーナコーン・アモーンラッタナコーシン・マヒンタラーユッタヤー・マハーディロック・ポップ・ノッパラット・ラーチャタニーブリーロム・ウドムラーチャニウェートマハーサターン・アモーンピマーン・アワターンサティット・サッカタッティヤウィサヌカムプラシット



地理

東南アジアの中心に位置し、国土面積は約 51 万 4000 平方キロメートル（日本の約 1.4 倍）ミャンマー（ビルマ）、ラオス、カンボジア、マレーシアと国境を接しています。

気候

タイは熱帯性気候です。年間の平均気温は約 29℃で、バンコクでは一番暑い 4 月の平均気温が 35℃、一番涼しい 12 月の平均気温が 17℃です。季節は 11 月～2 月の乾期、3 月～5 月の暑期、6 月～10 月のグリーン・シーズン（雨期）があります。

人口

約 6000 万人

民族的には、タイ族が約 85%、中華系が 10%、他にモーン・クメール系、マレー系、ラオス系、インド系が暮らしており、山岳部にはそれぞれの文化や言語をもった少数民族が暮らしています。

江戸時代より昔 日本とタイは国交貿易があり日本人の町がありました。タイの国王を警護したのが日本の侍で、信認が厚くタイの自治区の責任者までなった人もいました。その頃の名残か？今でもタイは親日で日本語を片言話すタイ人も多くいます。

タイでは、タイで作られている日本車が多く走っています。それも新しい型式が多く、特にピックアップトラックやハイエースなどカスタムして乗っている人が多いです。座席をリムジン仕様にする時に中古部品が多用されています。

まだ、廃車の派生は少なく、事故を起こした車は大半が、修理されて乗られています。まだ新車価格が高い 例えばフィットクラスで 180 万位 タイ人の平均月收入が、15000円なので、日本では修理されない事故でも起こして乗る人が多く 起し専用のオークションも存在しているようです。

ただ日本からは、中古部品のみが流通されていて中古車は、税金が 100パーセント以上掛かるので、日本で作られた車はお金持ちのみ購入しています。（日本のアルファードが 1000万に税金でなってしまう）ですからどちらかと言うと、タイの日本メーカーやタイの外車メーカーの車が多く若干デザイン装備が日本の物と異なります。東洋のデトロイドと言われる位 巨大な車工場があり、日本を含めほぼ世界のメーカーの工場が集約されています。その工場は、ナプロの様に工業団地にあるのですが、規模が大きく福島市全体が色んなメーカーの工場の様な感じですが、はじめからはじめて、車で 30 分以上掛かる位大きな工業団地が複数あります。

中古部品のお店ですが、タイには部品を扱うお店が集約されており、何百社と言う中古パーツを販売する会社があります。ナプロで販売した部品もここにコンテナで届きます。エンジンから小さな部品に至るまで売っています。



タイの人は器用なので、修理やチューニングも得意で、日本では少なくなった走り屋も健在 ベンツにスカイラインのエンジンをスワップしたり、船の原動機にトラックのエンジンを利用しています。ある意味日本よりアナログな改造など得意かも知れません。将来社員旅行で皆で見学出来るように目標しっかり達成をお願いします。

